

O-1 : オープンサイエンス／クラウドファンディング

大学におけるクラウドファンディング

8月30日（水） 13:50-15:20 大会場A（4階）

昨今“オープンサイエンス”といった言葉を聞く機会が増えている。この言葉“オープンサイエンス”が使われる文脈は2つある。

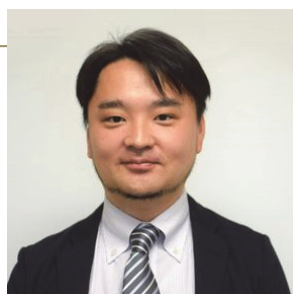
- ・1つは「アカデミズムを社会に開く」といった文脈。
- ・もう一つは「IT技術によってアクセスが容易になった」といった文脈である。

前者ではオープンアクセスやオープンデータなどの取り組みや、RRI（Responsible Research & Innovation）に代表される科学と社会との効果的な協力関係の構築を目的とした活動などが含まれる。後者では、クラウドファンディングやクラウドソーシングなど、IT技術による新たなサイエンスの営みなどが代表例である。このように、“オープンサイエンス”の潮流は多様であり、大学/研究機関によってはその対応に翻弄されている状況もしばしば見られる。一方で、新たな研究推進の可能性もオープンサイエンスの潮流の先には広がっている。

その中でも、近年大学/研究機関でも耳にする機会の増えたクラウドファンディングは、大学財務基盤の強化に向けた大学の外部資金調達のための受け皿となる可能性を持っている。また、クラウドファンディングによる研究資金の獲得は従来芽吹かなかった研究を推進する重要なツールとなる。一方、大学/研究機関でこの仕組みを利用する/取り入れるには多様な課題も存在する。

本セッションでは、（1）大学が自らクラウドファンディングのプラットフォームを築く事例。（2）大学/組織が外部のクラウドファンディングを用いる事例。（3）研究者個人が外部のクラウドファンディングを用いる事例。これら3つの異なる先行事例を紹介し、クラウドファンディングによって研究活動を進めていく上での課題と可能性を広く共有する。

オーガナイザー／講演者



白井 哲哉：京都大学 学術研究支援室(KURA) URA

2006年岡山大学院自然科学研究科修了 理学博士。2006年京大生命科学研究科 特任助手、京都大学人文科学研究所 特定助教を経て、2012年より京大大学学術研究支援室（KURA）URA。研究者時代の専門は、生命科学・生命倫理・科学コミュニケーション・科学技術社会論（STS）・科学技術ガバナンス。学際研究の経験とSTSの知見を活かして、研究現場の環境を改善したい。

オーガナイザー



中川 喜博：徳島大学 研究支援・産官学連携センター 助教

2017年より徳島大学 研究支援・産官学連携センター。香川大学大学院信頼性工学、米国スタンフォード大学研究員、高知工科大学大学院起業家コース、内閣府・省庁CIO補佐官支援、地方自治体CIO補佐官、富士通株式会社、京セラ株式会社 技術顧問、情報処理推進機構（IPA）、東京商工リサーチCIOを歴任。Ph.D.(学術)。

講演者

**佐野 正孝** : 徳島大学 学長補佐

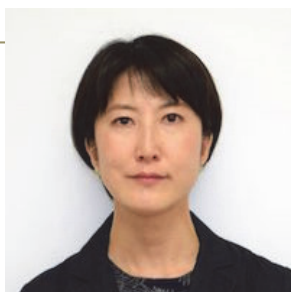
徳島県での履歴：徳島県財政課長、政策企画総局長、公益財団法人徳島県産業振興機構副理事長(中小企業経営支援)。

徳島大学：理事・副学長(地域連携、情報化、広報、防災) (H24~25)、学長補佐(外部資金担当) (H28~29)

**松野 渉** : 筑波大学 附属図書館

2014年より筑波大学附属図書館にて勤務。2016年の組織改変に伴い現在の所属は筑波大学学術情報部アカデミックサポート課。入職以来一貫してレファレンス担当係員として勤務。2016年度の筑波大学附属図書館クラウドファンディングプロジェクトにプロジェクト運営チームのメンバーとして参加。年次大会では大学職員としてクラウドファンディングに係わった知見をお話したい。

司会者

**天野 絵里子** : 京都大学 学術研究支援室(KURA) URA

1998年より京都大学附属図書館等で図書館職員として参考調査、機関リポジトリ、学修支援などを担当。2014年より京都大学学術研究支援室(KURA)URA。研究者や図書館、情報部門と連携してオープンサイエンスを推進する他、URA育成プログラムや研究支援システム構築などを担当。2008年同志社大学専門職大学院ビジネス研究科修了、2015年総合政策科学研究科博士後期課程修了。博士(技術経営)。